

第2回 台東区区民憲章策定区民会議 班別会議

第1班 議事概要

日時：平成17年11月2日（水） 19:00～21:00

場所：台東区役所 603 会議室

1. 台東区らしさについて

(1) 委員からの提出資料の発表

<事前に「台東区らしさ」について資料を用意した委員から、資料の説明があった>

(2) 討議

まちの安全性について

- ・安全に関して、治安が良いというイメージがあるとの意見が前回あったが、区民意識調査やイメージ調査で見ると、区民は安全性に不安があると感じていると思われる。
- ・長く住んでいる人には気にならないが、新たに移り住んだ人には繁華街の存在が不安を感じさせるのではないかと。

土地柄の多様性について

- ・谷中と上野、浅草ではまったく土地柄が異なる。また職人街、問屋街などもさらに異なる特性を持っている。この多様性が台東区らしさである。
- ・上野、浅草は台東区の顔であり、知名度も高い。しかし、谷中もまちづくりへの取組により知名度は高い。

台東区らしい下町のイメージについて

- ・下町という表現だけなら、墨田区や足立区も下町を標榜している。台東区ならではの下町のイメージを確立する必要がある。
- ・下町の語義は「庶民性のある町」ということだが、これだけだと他区もあてはまる。台東区のもつ下町のイメージには、おそらくこれに歴史の重みとそれによって下町らしさが文化といえるレベルまで地域に根付いていることが特徴といえるのではないかと。
- ・近隣同士の支えあいがあるのが台東区らしい下町のイメージだと考える。今でも、竹町公園の界限では、近所でおかずをおすそ分けしあう文化がいまだにある。このように助け合って暮らすという文化は、今後高齢社会になっていく中で、重要になるのではないかと。

職人の町としてのイメージについて

- * 上野や浅草のイメージが強いが、職人の町としても機能集積が高く、知名度も高い。

*ただし、職人達は後継者不足に悩んでおり、こうした特性が薄れてしまう恐れがある。

台東区の受容性の高さについて

- ・浅草界限でも何代も前から住んでいる人はむしろまれで、外から移り住んできた人が多い。上野は長い間地方から東京への玄関口だったので、地方から移り住んできた人が多かった歴史が、地域の受容性の高さを育んだのではないか。
- ・自分が外から来た時に良くしてもらったから自分もという気持ちで、外来者を快く受け入れる地域性として受け継がれてきたのではないか。これは大切にすべき特性である。
- ・昔から遊郭や妾宅等が多くあったが、立場などで人を差別せず受け入れる文化があった。
- ・近年は近所づきあいを避けようとする人たちも多く、おせっかいが嫌がられる風潮があり、こうした特性が失われつつある。

2. 今後の議論の進め方について

- ・現状に立脚した言葉だけでなく、将来こうありたいという事も憲章に表現したい。
- ・子や孫が住んでよかったと思えるような街にするために、良いところを伸ばしていくために何が必要かも議論していきたい。

3. 三輪副会長よりアドバイス等（メンバーとの質疑応答を主として）

下町のイメージについて

- *台東区ならではの下町のイメージを「下町文化」といってしまうと、かえってわかりにくくなるのではないか。文化に相對する概念として生活があると考え、台東区らしい下町の特性はむしろ生活に根ざした部分にあるのではないかと思われる。
- *また、やはり江戸時代の長屋から受け継がれた歴史の厚みが台東区らしい下町の特性だろう。そして、それが失われつつあることが課題なのではないか。
- *日本らしさは日本語（和語）にあるといえるが、和語の特徴として「合」という言葉が含まれる熟語が非常に多いということがあげられる。助け合い、支え合い、付き合いなど、こうした概念が日本人らしさだと言えるのではないか。

台東区の受容性の高さについて

- *台東区は誰でも分け隔てなく受け入れる受容性の高さを持っているという議論が前回あったようだが、自分の体験からも同様の印象を持っている。この受容性の高さは何に起因しているか考えてみると良いのではないか。

4. その他

- ・次回は11月24日19時から、次々回は12月12日19時から開催することとする。

（以上）